

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム大空Ⅱ ユニット1	評価実施年月日	平成20年2月27日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	稲場 ゆかり	記録年月日	平成20年2月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「一緒に・ゆったり・楽しく」との願いのもと、日々の生活を穏やかな物にするよう日々努力している。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	月1回の会議等で利用者本位であること、共に生活しているということを事例を通し確認している。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては、面会時等で個々にお話させて頂く事はあるが、十分でなく地域への働きかけも出来ていない状態。	○	運営推進会議等で周知を行っていきたいと考えている。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣に人通りが少ないことから挨拶程度にとどまっている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会には加入し、地域の情報は得られる状態にあるが、地域の催しへの参加は無く十分とはいえない	○	地域のお祭りや町内行事への参加を検討したい。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現状での取り組みは無い。	○	運営推進会議において、地域のニーズを把握し、とりくみに繋げていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価をサービス向上に機会ととらえ、指摘事項について話し合いを行うなど改善に努めている。</p>	○	今後も話し合いを行い、改善に努めたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>開催自体できていない状態</p>	○	早急に開催、話し合いを行うことで今後の糸口をつかみたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>担当者との行き来は少なく十分な連携にはいたっていない。</p>	○	運営推進委員会の活用等で連携を図りたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修参加時に学ぶ程度、職員への周知は十分でない状態。又、入居時にすでに制度を利用している方はいたが、その後の利用希望や相談は無く支援には到っていない。</p>	○	今後も法改正や制度の見直し等において学習し、相談があった場合に備え準備したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>新規採用職員については資料を配布しているが、勉強会は開催出来ていない。事業所内での虐待については全く無く、誤解を招きやすい職員の行動についてはその都度注意をし改善している。</p>	○	勉強開催や研修への参加を検討。ホーム内でのチェックを続けていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には契約書の読み合わせ、補足説明を行い疑問や不安を解消できるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	その都度職員や管理者と話を出来るようにしている。即時解決できる事案については、連絡ノート等で職員への周知を図っている。	○	
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、通信を作成し請求書と一緒に送り日常の様子を見ていただいている。金銭に関しては、一ヶ月ごとにまとめた出納表と領収書をお渡しし確認して頂いている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの希望等については話が合った時点で連絡ノートに記載、周知を図っているが個別に管理できていない状態。	○	苦情処理簿を作成個別に管理できる体制を整えたいと考えている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議を開催し、職員の意見を聞くよう努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	十分な人員を確保できておらず、柔軟な対応が出来ていない	○	現在の勤務時間では手薄になる時間帯があり、改善が必要と考えている。業務改善委員会を設置、個々の業務内容の手順の見直し等を行っている最中。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なるべく異動や離職が内容人員確保に努めている。代わった場合は1週間ほどなじみ職員と行動を共にし入居者に馴染んでもらうよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設外への研修に参加し、職員会議で研修報告として周知に努めている。施設内の研修・勉強会は行えていない状態。</p>	<p>○</p> <p>施設内の勉強会を検討中。外部の研修への参加も増やしていきたいと考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>独自での交流はもていない状況だが地域包括支援センターが主催するグループホーム見学会に参加し意見交換の場として活用させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>サービス向上のため交流の場を広げる機会を作っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の場面に応じた相談は管理者が積極的に聞くよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日々の勤務状態を把握・評価しベースアップや正職員への引き上げを行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員個々の努力が評価できるよう運営者との話し合いを定期的に持ちたいと考えている</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に本人と会う機会を作るよう努めているが、半数は家族担当ケアマネジャーの情報に頼っている状態</p>	<p>○</p> <p>新規に入居される方への訪問を必ず行い、話を聞ける機会を設ける。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に見学は必ず行ってもらい、このときに時間の許す限り話を伺っている。契約時にも改めて話を伺うことにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にサービスの利用状況や利用時の状況も含め話を伺っており、必要に応じ関係機関への相談等のアドバイスをしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	おためし利用も開設時検討したが、現在満床であることや入居者の精神的な安定を考慮しお断りしている状態。見学時には可能な限り本人も一緒にきていただけるようお願いしている。	○	入居前の訪問、見学のほかにサービス導入につながる交流方法がないか検討したい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の食事やお茶の時間を共有したり、行事のゲームで職員とチームを組むなど同じ時間を共有し、共に楽しむことが出来るよう努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には最近の様子などお話し、職員も参加してお茶を取られることもある。家族会等の開設も検討中だが実行に移れていない状態。	○	運営推進会議や家族会の開催により、家族の方からの意見を聞く機会を設け共に支援するために何が出来るのか考えていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時の他に花見・敬老会と行事への参加をお誘いし、ご本人のいろんな表情を見ていただくことで、良い関係の維持に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ホームとしての支援は特に行っていないが、友人・知人の面会も多く手紙がくる方もいる。遠方の親戚から電話がくる方もありつながりは残っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の性格や関係を考慮し、食事の席を決めたり交流援助を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院・死亡退居が多く、現状で交流のある利用者・家族はいない。	○	今後に備えどういった係わりあい方が出来るか検討したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の些細な会話からも情報を得られるよう日常の記録や職員同士の情報交換に努めているが、職員配置等でかなわないこともあり十分ではない。	○	今後も情報収集の手は緩めず、本人の希望に添う対応を検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前又は入居してからの会話、家族との話などから情報をつかむよう努めている。	○	より効率的な情報収集が必要と考えている。フェイスシートの変更を行うなど聴く側の準備が出来ないか検討したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の記録から1日の様子を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	その都度本人や家族、職員からあがる意見を参考に計画を作成しているが、関係者が揃った中での話し合いが出来ていないのが現状である	○	会議の開催、意見聴衆の方法について検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	更新時には新たにアセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	○	その都度変更したプランについての記録が残らないことも多く、その点が改善されるよう努力したい
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録を用意し、バイタル測定値や食事摂取量、日々の様子などを記載し、情報の共有や介護計画見直しの材料にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者個人とのかかわりを多く持ち、本人の希望を聞き出す努力はしているが人員等の問題から対応が十分出来ないことも多い	○	ニーズの把握や事業所としての対応能力含め、定期的に検討話し合いが必要と考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在個別対応している事例はない。以前、行事等で協力していたボランティアも行事の内容などから参加していただけていない。	○	行事等でのボランティアの参加や地域との交流としてのかかわりについて検討したい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在対応している事例がなく評価できない。	○	今後、必要があれば検討協力をしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	情報提供や研修会参加等での交流はあるが、個別事例に関する相談等はない。	○	必要に応じて対応していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の医師に週1回往診をしてもらっており、相談等を行っている。その他のかかり付けの病院についても職員が同行し日常生活の報告・相談の援助を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科の医師数名の下に受診しているが、各担当の利用者の相談に留まっているのが現状。協力医との相談の中で専門医との連携が取れるよう協力してもらっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤で看護師を配置。週2回の勤務で健康相談等を行っている。又、24時間体制で連絡が取れる状態を作っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は日常生活の様子等の情報交換を行っている。入院中も様子を見に行くよう努め、退院に向けた情報収集を行うよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ADL低下等による介護状況の変化についてはその都度家族主治医と相談するよう努めているが、事前に準備するまでには到っていない。	○	可能性の段階での話し合いの場を設けたり、本人・家族の希望を聞き出す機会を設けるよう検討したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在、終末期に向けた対応をしておらず、準備も整っていない状態。	○	ホームとしての方針を準備の為の終末期に向けての勉強会や話し合いの場を開いていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前の情報収集を行い職員に周知することで住み替えのダメージをできる限り少なくするよう努めている。不安時には家族に電話をかけた話をしてもらい不安解消に努めるなど家族の協力もお願いしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人のプライバシーや尊厳を損ねることの無いよう特に排泄誘導の声かけ等には十分注意するよう管理者より職員にその都度注意を促している。個人記録については入居者の側での記入をできる限り避けている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉掛けや本人から出される非言語的なサインに注意しながら本人の意向に沿った支援を行うよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事、入浴時間など大まかな日課の設定はあるが、個人のペースに合わせ柔軟に対応している。</p>	○	職員の配置の改善等で更に対応可能な部分が無いか検討実践を続けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容については一部の利用者を除き、訪問の理美容サービスを利用している。日々の身だしなみについては本人の状況に合わせ、足りない部分を補う形での支援を行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせ食事形態やメニューの変更を行っている。季節に合わせたメニューも取り入れたり、食事中に音楽を流すなど雰囲気作りも工夫している。後片付けを手伝っていただくことが多いが、準備に係われる機会がほとんど無い状態。</p>	○	更に入居者がかかわれる部分がないか希望を聴きながら検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	水分補給時には希望に添えるようお茶やコーヒーといくつか準備しその都度希望のものを出せるようにしている。現在飲酒される方、喫煙を希望される方はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	随時誘導・介助にはいつている。排泄チェック表を使い排泄パターンの把握や誘導時間の参考にしている。オムツ・パット類については本人の状況に合わせて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週2日入れるように予定を組んでいる。曜日は固定されているが、受診やその日の気分で変更している。同姓介助を行うよう努めているが勤務上かなわないことも有り、この場合本人の了承を得て入浴日を変更する場合がある。一人ひとりにかかる入浴時間は本人が満足できるようゆっくり取れるよう努めている	○	入浴時間が昼食後から夕方までと限られており、更に利用者個人の希望する時間帯での対応が出来ないか検討が必要と考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床や就寝時間は本人の体調やペースに合わせて柔軟に対応している。居室の温度・寝具の調整にも気を配り気持ちよく休めるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器拭きや洗濯物たたみなどの家事を手伝って頂いたり、カラオケなどのレクリエーションや外気浴で気晴らしを行うなどしている。	○	気晴らしや楽しみの部分で更に選択肢を増やしたり、個人の希望にあわせたかわりが出来ないか検討が必要と考えている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとして事務所で預り管理している。本人の希望時には買い物代行という形で対応している。行事として買い物外出を予定しており、このときには職員が付き添い本人の管理のもとお金を使えるよう支援している。	○	日常的に本人が買い物に出掛けられるような体制作りが必要と考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	敷地内の畑に出る程度の対応はしているが、日常的に外出を行えている状況にはなっていない	○	職員の配置を含め、柔軟に対応できる体制を整えていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事として花見や紅葉見学等を行っている。花見については家族にも参加をして頂いている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望時職員が代わりに用件を伝えたり、繋いでから代わって話をしていただけよう支援している。手紙については希望がなく行っていない状態。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時にはお茶を出したり、最近の様子などお伝えし会話のきっかけを作るなどしている。入浴時間等も調節し時間を気にせず過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束行っていない。身体拘束についての勉強会などは行っていない。	○	職員の研修や勉強会の開催の中で身体拘束についての知識の向上・意識の統一を図りたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の玄関の施錠は行わず、所在確認と玄関のセンサーの活用で事故防止に努めている。早朝・夜間については職員配置が手薄になることや防犯の観点から施錠を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者の動きに目を配り所在や様子を把握するよう努めている。夜間については巡回時間を決めているが、状況に応じその都度様子を確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	内服薬については一律で事務所保管となっているが、はさみや裁縫道具・おやつなどの食品については本人の状況に合わせ本人の居室で自由に持てるようにしている。保管・使用状況についてはリネン交換や居室整理など訪室した際に確認し記録するよう努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒等の事故については事故報告書を作成、考察を行っている。書類については周知を図る目的から職員休憩室に保管している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	体調変化時のバイタル測定・報告は徹底されているが応急手当等の訓練は行えておらず職員個々の経験に頼っている状態。	○	マニュアル作成・勉強会の開催については現在検討中である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を実施。うち1回は利用者数名にも参加していただき、一緒に避難している。	○	地域の協力が得られるような働きかけを行っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	状況変化時など家族と連絡をとり、対応策について相談を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定で平均値を把握し、表情の変化などから異変の早期発見に努めている。発見時には報告、相談を徹底し次の対応につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の情報は個人ファイルに保管いつでも確認できる状態になっている。変更・追加の薬については使用方法や注意点を連絡ノートに記載周知を図っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便状況の確認は毎日行っており、水分摂取量についても合わせてチェックしている。便秘予防を目的とした運動は行っていない。現状として、定期薬として下剤を服用されている方が多いため、便秘に対するアプローチはされていない。	○	下剤の必要性・必要量の確認が改めて必要と考えている。また、運動する機会が少ないため、レクリエーションとして運動の機会を増やすことができないか検討したい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕を中心に口腔ケアを実施している。自立されている入居者についても十分でないと感じる方については確認、見守りを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者全員の食事・水分の摂取量をチェックし、個人記録に記載している。主食の量や形態についても個人の状態に合わせたものになっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては入居者全員と職員に予防接種を行っている。手洗いや手指消毒の励行についても職員に指導徹底している。	○	感染予防の研修に参加周知を行ったが、マニュアル作成にはいっておらず早急に対策が必要

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は週1度購入、野菜類については週2回配達してもらっており新鮮なものが使える状態になっている。台所シンクや包丁は毎晩消毒液にて消毒を行っている。冷蔵庫内のチェックも週一度行い、実行職員はチェック表にサインしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関はバリアフリーとなっており、階段・スロープも設置し入居者だけでなく面会等でこられるどなたにも出入りしやすいよう配慮している。また花壇も設置され夏場は数種類の花を楽しめるようになっている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングには行事の写真を張り出したり入居者の家族の協力を得て造花を飾り季節を楽しむような雰囲気づくりに努めている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング食卓席の前にテレビが設置してあり、そこに集まりお話される方が多い。事務所前の一角にソファコーナーがあり空間が仕切られているため一人になりたいときや相談事があるときにも利用されている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅から使い慣れたものをお持ちいただくよう説明している。写真やご本人が以前に作られた手芸作品を置くなど個性のある部屋の作りになっている。家具の配置についても本人の動線を考え都度変更するなど柔軟に対応している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に温度計を設置、室温チェックを行っている。合わせて換気等も行い快適な環境になるよう努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリーとなっており各所に手すりを設置している。車椅子にも対応できるようトイレや浴室も広くとってある。また、入居者のADLや動線を考慮した家具の配置をおこない安全に移動できるよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや居室に手製の表札をつけるなど見た目に分かりやすい工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には家庭菜園が楽しめるよう畑があり、草むしりや収穫などを職員と一緒に行っていただいている。また、テラスに花壇もあり花を植え、お茶の時間に外に出られたりしている。 冬は雪が積もるため外には出られないが、アイスキャンドルを用意し中から楽しんでいただけるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	①

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	④
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

レクリエーション等の取り組みは十分ではないが、ゆったりした雰囲気や時間の流れを作る努力はしっかり行われており、日々の暮らしを穏やかに過ごせていただけていると考えている。この雰囲気を維持しながら、レクや趣味活動など更に充実した生活が送れるよう支援していきたいと考えている。